

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-----------------|
| 事業所番号 | 3870102120 |
| 法人名 | 医療法人 たくま会 |
| 事業所名 | グループホーム せと |
| 所在地 | 松山市余戸南2丁目19番33号 |
| 自己評価作成日 | H25年3月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 25 年 6 月 17 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットに看護職員が1名以上ずつ配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応できる。医師も連絡すれば、すぐにかけてくれる。
運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方にも参加して頂き、意見交換をしたり、地域の行事の情報なども教えていただきながら地域との連携を図っている。せとでの行事にも参加していただいている。職員のスキルアップのために、職種や経験年数に応じた研修に参加して貰っている。
ご家族様にも協力をお願いし、日々のケアや外出など行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後12年を超えた事業所は、地域住民との繋がりを不可欠なものとして位置づけており、日頃から交流を大切にしている。母体法人は医療機関で、事業所には看護師が多く、医療と介護がお互いに協力連携体制ができており、利用者の健康管理や安全な暮らしが送れるようサポートしている。職員一人ひとりが利用者のケアに熱い気持ちを持って支援しており、利用者との関係づくりができています。利用者や家族等にとって最良のケアが提供できるよう、職員は必要な知識と技術を習得したり、評価や改善を繰り返し行い、利用者本位のケアが実践できるよう取り組んでいる。利用者とは長年の信頼関係があり、利用者の高齢化による介護度アップや、職員の高齢化が課題となっている中、今後の人材育成にも意欲が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

| | |
|-----------------|-------------------|
| 事業所名 | グループホームせと |
| (ユニット名) | さくら |
| 記入者(管理者) | |
| 氏名 | 平野 愛 尾崎 里美 蔭谷 きよみ |
| 評価完了日 | 平成25年3月15日 |

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|--|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 事業所で誰にでも分かりやすい理念を作成し、各ユニットに掲示し、誰でも見ることができるようにしている。理念をケアプランの援助方針に取り入れ、共有し実践できるように努力している。また、会議等で理念の共有を深め、実践につながるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者と職員で作成された理念は、現在も大切に受け継がれており、地域との連携の中で利用者本位のサービスに努めている。毎年、理念を基に目標を立て評価を行い来期へと繋げている。職員は、入職時や業務カンファレンスで日常的に理念を共有しており、介護計画の援助方針に取り入れるなど実践している。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、盆踊り、川掃除など)ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加して頂いて交流を深めている。(夏祭り、蛍鑑賞会、避難訓練など)また、運営推進会議にも参加して頂き、定期的に交流している。</p> <p>(外部評価) 自家菜園での作業や窓拭きのボランティアなどの地域住民が気軽に立ち寄れる関係づくりが行われている。また地域の保育園児の訪問や、小・中学校の児童や生徒の体験学習を受け入れている。地域との関わりを必要不可欠として捉えており、町内会行事や会議へ積極的に参加している。事業所が地域の一員として貢献しながら、相互に協力し合える関係づくりをしている。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 運営推進会議や避難訓練などに参加して頂き、認知症の理解や支援方法を知って頂けるように努めている。地域の様々な研修や会合にも参加している。家族の認知症の対応など、いつでも気軽に相談を持ちかけて頂くようお伝えしている。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|---|-------------------------------|
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>(自己評価) 取り組み状況、年間計画など、地域の方、市の職員、利用者、家族に参加して頂いて伝えている。要望、意見を聞き、サービスの向上に努めている。避難訓練を地域の方を交えて行うなどもしている。地域からも情報を提供していただき、意見交換や報告などを行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民、他事業所の職員等の参加は多種にわたる。会議は、毎回趣向を凝らして開催しており、日常の取り組み等の報告を通じて、事業所の現状を理解してもらう良い機会となっている。また地域の情報交換の場として有効に活用しており、病気や介護、防災対策等の議題について話し合いをしている。</p> | |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 運営、ケアサービスの不明な点などについて連絡を取り相談している。運営推進会議にも参加して頂き、取り組みなど伝え協力して頂けるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 市介護保険課や地域包括支援センターの職員は、運営推進会議へ参加しており、定期的な報告や意見交換をしている。日頃から市担当者等とは気軽に連絡や相談ができる顔なじみの関係が築かれている。</p> | |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 日中は鍵をかけず、自由に入出入りが出来るようにしている。身体拘束ゼロの手引きを各ユニットに置いて理解を深め、拘束しないケアに努めている。また、身体に危険が及ぶ場合ややむを得ない場合は、ご家族様の了承・同意を得て行ってその都度拘束しないケアができないか話し合うようにし見直しも行っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを整備しており、職員は話し合いの場を設け、身体拘束は行わないケアを実践している。安全上やむを得ない場合には、家族等と同意書を交わして、経過観察や再検討を行い最小限となるよう努めている。玄関はセンサーを利用して24時間開放しており、地域住民の協力のもと、職員間で声かけや見守りを徹底しながら利用者の自由な暮らしが送れるよう支援している。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 虐待防止についてのマニュアルをユニットに置いて、閲覧できるようにしている。高齢者虐待法についても定期学習会で、勉強し会議などでも話し合いをし、防止についても務めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 成年後見制度についてのファイルを作り、各ユニットに置いている。また、現在成年後見制度を利用している利用者様がおられるので、以前に比べ身近なものになっている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) ゆっくり時間をとり、十分な説明をし、理解して頂けるようにしている。不明な点などは聞いて頂き、納得できるよう説明している。改定などがあつた時は、家族会を開いたり、手紙を送って承認を頂くなど周知徹底を図っている。ターミナル、医療面などはその都度説明している。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 面会時、家族会などで意見、要望などを出して頂き、全スタッフが共有し話し合い、きちんと対応するよう努めている。 | |
| | | | (外部評価) 苦情受付窓口が事業所内と公的機関にあり、サービスに対して意見がある場合は相談できることを利用者や家族等に説明している。利用者や家族等には、訪問時や家族会、ケアプラン等作成の連絡時に気軽に発言できるように努め意見を聞いている。意見が出された場合は、報告書にまとめ検討し、速やかな対応をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 定期的に個別に面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っており、話しやすい環境づくりをしている。また、代表者にも面談時の内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。 | |
| | | | (外部評価) 事業所での勤務歴の長い職員が多く、気づきや思いなど言いにくいことも話し合える関係にある。施設長や管理者は日頃から悩みや問題がないか職員の表情をしっかりと観察しており、気づくことがあればその都度声かけをして和やかな関係づくりに努めている。また代表者も事業所に頻繁に来訪して運営状況等を詳細に把握しており、職員とは毎年面談の機会を設け、現場の意見等を運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 幹部職員が職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら待遇面を決定している。職員のやりがいを考え、毎年少しずつでも昇給できるよう努めている。また、電動ベッドなどの福祉用具の取り入れをする等積極的な対応で、職員の身体を気遣い、職員が向上心を持って働けるような環境整備にも務めている。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 職員の経験年数や職種に応じて研修を受けて貰っている。県内外で行われる研修会などには職員が参加しやすいよう、費用面についても支援している。研修後には報告書を書いて貰い、会議などで発表したり、学習会を開催するなどして共有している。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。 | |
| | | | (外部評価) | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聞き、安心していただけるよう努めている。 | |
| | | | (外部評価) | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) ご家族の今までの苦労、不安なこと、要望など相手の身になって話を聞き、事業所でどのような対応ができるか、きちんと話し合いをして関係づくりに努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) ご本人・ご家族様の置かれている状況を把握し、その時に必要なサービスを提供できるように、他職種とも相談し、対応している。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) コミュニケーションをとりながら、そばに寄り添い、信頼関係が築けるよう努めている。ご本人の出来ることはご本人にして頂き、ご本人の出来ないことは一緒に行ったり、代わりにしたりしている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 外出、外泊、通院などご家族の協力を得ている。ご本人の日々の生活状態や体調等を面会時や月末の手紙で報告し、ご家族とご本人の情報を共有し、一緒に支えていく関係を築いている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) 入居前の本人の馴染みの物・人・場所を大切にし、ご家族から話を聞き、それらが途切れないようにしている。いつでも面会に来て頂けるようにしている。また、電話や手紙なども自由にやりとりして頂いている。関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけを行っている。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた関係や習慣は、家族の協力を得てフェイスシートや支援マップシートなどを利用して、把握するよう努めている。事業所でも馴染みの関係が今までと変わりなく継続できるよう支援している。また、地域住民や利用者との新たな馴染みの関係づくりができています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|--|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 入居者同士が共に過ごす時間をつくり、職員も会話に参加し、楽しい時間が過ごせるように努めている。また、利用者同士の様子をみながら、必要であれば、職員が間に入って会話をつないだり、距離をおいてもらうなどの支援をしている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 入院した時は、面会に行くなどして状況把握に努めている。必要に応じて相談に乗り、支援していくよう努めている。その後の経過状況を把握し、フォローできるよう支援している。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) できる限り、思いや希望にそえるよう支援している。きちんと把握するようご本人やご家族様に思いや意向を聞いている。また、できる限り希望に沿えるよう職員間で話し合い実施できるように努めている。 | |
| | | | (外部評価) 日頃から利用者の一瞬一瞬を見逃さないように努め、意向や思いを把握している。把握が困難な利用者には、家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作、志向などの少しの変化を観察して把握している。職員間で記録の共有や話し合いを行い、利用者の思いに沿ったケアができるようチーム体制で取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 入居前にフェースシートをご家族に記入してもらっている。また、その時々でご家族に聞いたり、ご本人に直接聞いたりして把握に努めている。また家で使っていた家具や馴染みのものを持って来てもらっている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 利用者一人ひとりの過ごし方を観察し、見守りを行い、ご本人の心身状態、残存機能、現状の把握に努めている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|--|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | <p>(自己評価) ご家族やご本人の要望を聞いたり、ご本人の意思表示が難しい方は普段の様子から思いを汲み取り、他のスタッフとケアカンファレンスを開いて、一人一人の状態に合わせたケアプランを作成している。また、ご本人の状態に変化があれば、その都度話し合いを行い、新たにケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者の日々の様子は詳細に記録しており、利用者や家族等の要望を一番に考えて、職員は業務カンファレンスで検討している。介護計画は、計画作成担当者が作成し、毎月モニタリングを行っている。重要事項や介護計画の変更部分について色を変えて記載するなど、各書類が見やすいよう工夫しており、職員全員が内容を理解し、正しい援助ができるよう努めている。</p> | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | <p>(自己評価) 個別記録に水分、食事、排泄など身体状況、日々の暮らしの状況、気づいた点など記録に残すなどして情報を共有している。重要なことはラインを引くなどして介護計画の見直しに活かしている。</p> | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | <p>(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。入居者が買い物に行きたいとの要望が出た場合などはできる限り対応している。</p> | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | <p>(自己評価) 受診や通院はご本人、ご家族様の希望に応じて支援している。かかりつけ医との情報交換を密にし、共有できるように支援している。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | <p>(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、日々の観察 などで得た気づきの情報を伝え、利用者の健康管理や状 態の変化に応じた支援ができるようにしている。医療 機関との連携があり、緊急時の対応がすぐにとれる。</p> <p>(外部評価) 利用者の多くは母体の医療機関を主治医としている。 事業所には看護師が多く、医療連携の体制が整備され ており、利用者は安心感がある。また、利用者の希望 する医療機関や専門医等を家族の協力を得て継続して 受診することができる。家族が対応できない場合に は、職員が同行して安心して受診できるように支援し ている。</p> | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | <p>(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、日々の観察 などで得た気づきの情報を伝え、利用者の健康管理や状 態の変化に応じた支援ができるようにしている。医療 機関との連携があり、緊急時の対応がすぐにとれる。</p> | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | <p>(自己評価) サマリーに詳しく状況を記入し、情報交換をしてい る。医師、ナース、ご家族より状態を聞いたり、相談 しながら、早期退院に向けて協働している。また、退 院後のケア方法など話し合いの時間を設けたり、話し 合いの時間が取れない場合は書面にてケアの方法など をやり取りしている。</p> | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | <p>(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入 居時に説明している。ご本人やご家族様の希望を聞 き、どこまで対応できるか、職員も一緒に話し合い、 Dr、ナース、介護福祉士、家族共々支援に取り組ん でいる。</p> <p>(外部評価) 看取りの指針を定め、マニュアルを整備している。利 用者や家族等の意向を確認しており、事業所としてで きることでないことを明確に説明している。状態の 変化した場合や段階に応じて家族等との話し合いの機 会を設け、医療機関などの関係者全員で支援できるよ う取り組んでいる。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|--|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 応急手当、急変時の対応について研修を行っている。マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見れるようにしている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加して頂き、協力が得られる体制を築いている。夜間の災害を想定し、緊急時の召集訓練も行っている。災害時におけるマニュアルを各ユニットにおいており、読み合わせなども行っている。 (外部評価) 地域住民と一緒に避難訓練や緊急時招集訓練を実施しており、消防署や地域の防災士に具体的にアドバイスを受け意見交換をするなど協力関係ができています。また、非常災害時の勉強会を利用者を含めて実施している。備蓄は非常時に必要となる物品を備えている。 | 避難訓練や資料作成等に対して具体的に専門家にアドバイスを受けたら、地域住民と協力体制を築く努力をしていることは大変有効な対策である。今後は地域に貢献できることも検討しつつ、あらゆる災害を想定した訓練の実施や、繰り返して訓練していくことに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 一人一人に合わせて、穏やかな言葉かけや対応ができるよう、気を配っている。一人一人思っておられることが違うため、プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。 (外部評価) 居室やトイレ、お風呂等では、スクリーンを使用し、個人が特定される発言には配慮して支援している。職員は利用者を敬い尊厳を損なわないように不快感や羞恥心に気を配り、プライバシーを損なわないようにさりげない声かけや対応を心がけている。外部講師による接遇研修の勉強会を行い、職員間で意識を高めると共に、個人情報書類などは、厳重に注意して取り扱っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) ご本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。また、意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取るようにしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 入浴・休息・排泄など、できるだけ一人ひとりのペースに合わせ、その人のペースや思いを大切にし、職員主導の生活にならないようにしている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。化粧をされる方には、いつでも物品が提供できるように予備を準備している。その日に着る服なども、ご本人に聞いているが、認知症の重度化に伴い、その日に着たい服を選べる利用者様は、ごく一部になっている。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 一人一人の好みを考えて、必要時には、嫌いなものと取り除いて、代替えの食品などを用意している。また、入居者のできる力を活かし、職員と一緒に準備したり、片付けをしている。楽しく食事ができるよう心がけている。 | |
| | | | (外部評価) 利用者と職員が同じ食卓を囲み和やかな食事の時間を過ごしている。また、食事の準備や片付けなど利用者と一緒に行っている。何よりも食事が楽しみに繋がるように、利用者の志向の把握や健康状態の観察を継続して行っている。食事には菜園で収穫した旬の食材を用いたり、隣接する事業所と共通献立をアレンジしたりして、利用者一人ひとりを意識して調理する工夫をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 一人一人の状況を把握し、1日の水分、栄養バランス、習慣に応じた支援をしている。嚥下状態を把握し、それに応じた食事形態にしている。また、摂取量が少ない方には回数を増やしたり、カロリーのあるものや好みのものに変更し対応している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後、口腔ケアが行えるよう支援している。一人ひとりの状態に応じた見守りや介助をしている。ポリデントを使用して清潔保持にも努めている。また必要時には、訪問歯科の衛生士さんに来ていただきケアしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、介助が必要な方はトイレ誘導を行っている。必要者にはポータブルトイレを使用したりし、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態に応じて、パッド、紙パンツ、布パンツなどで対応している。しかし重度化に伴い自立に向けた支援が困難になってきている。 | |
| | | | (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをアセスメントで把握し、個人のリズムを大切に声かけ・誘導を行っている。排泄チェックや用品の工夫や適切な使用を職員間で話し合い、自立に向けた支援ができています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 水分をきちんと摂って貰ったり、腹部のマッサージを行ったりしている。必要に応じ、排便チェック表を作成し、パターンの把握に努めている。また、その方の状態に合わせて、下剤を服用してもらうなどしている。 | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 一人ひとりの希望に合わせて入浴して貰っている。チェック表を作り、入浴の状況を把握している。一人ひとりの健康状態も考え、ニーズに合わせて入浴方法を検討しながら入浴していただいている。 | |
| | | | (外部評価) 利用者は週2～3回を基本として入浴することができる。利用者の介助の必要に応じて入浴時間帯を決めざるを得ない場合もあるが、リフトの利用や補助具等のハード面の工夫を行い、双方に負担なく安全に入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には、無理強いせずに関係づくりや声かけなど対応に工夫して支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) その日の体調や本人の希望に応じて、居室で休んで貰っている。日中は出来るだけ活動して貰い、夜間は安眠できるよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人ひとりが服薬している薬について理解するよう努めている。薬の変更時は、職員に申し送りをしている。薬は職員が管理し、服薬時は必ず職員が2人以上で確認してから服薬してもらっている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) ボランティアの方の演芸を観たり、ユニット内でレクレーションを行ったり、近隣への散歩や、庭へ出たりして気分転換を図っている。また、花見やイチゴ狩り、買い物、外食など長時間の外出は、計画を立てて体調をみながら外出支援をしている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) ユニットでの外出や季節毎の外出は計画を立てて行っている。車椅子の利用者が多い為、一人ひとりの希望を聞いての対応が難しくなっている。ご家族の協力も得ながら、近隣の散歩や外出など季節を感じることができるよう支援している。 | |
| | | | (外部評価) 広い事業所敷地内では、日頃から日光浴や散歩をしており、設置している庵では、お茶会を楽しんでいる。利用者の希望により買い物などをして気分転換を図っている。外出計画を立てて定期的に外出したり、事業所行事や菜園等の作業をしたりして、地域住民や家族等との関わりも深まるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、所持できる利用者には少額所持して頂き、買い物など自分で使えるよう支援している。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) ご本人の希望があるときは、電話も手紙もいつでもやり取りできるよう支援している。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | <p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。料理の臭いや音などで生活感のある環境を作り、季節の花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している。体温調節の困難な方には、冷暖房、除湿、換気、掛け物の調整等を行っている。</p> <p>(外部評価) 家庭的な空間には、畳のスペースやテレビ、ソファがあり、自分の家でくつろぐように好きな場所で過ごすことができる。臭気や温度管理に配慮し、生活感がある中にも清潔感が保てるよう心がけている。段差の解消や建物内部を改修をして居心地よく生活できる工夫をしている。</p> | |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>(自己評価) ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。ホール、居室を思い思いに使って過ごされている。</p> | |
| 54 | 20 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) ご本人の使い慣れた食器や家具などを持ってきていただき、壁には、ご本人の好みの絵や馴染みの人との写真やご本人の写真を貼ったり工夫し、居心地良く過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドが備え付けてある以外は、利用者は使い慣れたものや好みのもを持ち込むことができる。思い出の写真を飾ったり、家具も使いやすいようレイアウトを自由に楽しんでもおり、心地の良い空間となっている。職員が清掃を行い、ベッドは利用者の希望や状態に合わせたものを使用できる工夫をしている。</p> | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>(自己評価) バリアフリーで廊下やホールに手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。トイレなど共有部分には混乱しないよう紙に書いて貼っている。</p> | |

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-----------------|
| 事業所番号 | 3870102120 |
| 法人名 | 医療法人たくま会 |
| 事業所名 | グループホームせと |
| 所在地 | 松山市余戸南2丁目19番33号 |
| 自己評価作成日 | 平成25年3月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載 |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 25 年 6 月 17 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| | |
|---|----|
| <p>研修担当者を中心に所内外の研修に参加している。 ニットに看護職員が1名以上配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応でき、医師もすぐにかけてくれる。 入居者の状況の変化に迅速に対応できるように、サービス計画、実践のモニタリングに力を入れ、担当者が変わりながら、客観的評価を大切にしている。</p> | 各ユ |
|---|----|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>開設後12年を超えた事業所は、地域住民との繋がりを不可欠なものとして位置づけており、日頃から交流を大切にしている。母体法人は医療機関で、事業所には看護師が多く、医療と介護がお互いに協力連携体制ができており、利用者の健康管理や安全な暮らしが送れるようサポートしている。職員一人ひとりが利用者のケアに熱い気持ちを持って支援しており、利用者との和気あいあいとした関係づくりができています。利用者や家族等にとって最良のケアが提供できるよう、職員は必要な知識と技術を習得したり、評価や改善を繰り返し行い、利用者本位のケアが実践できるよう取り組んでいる。利用者との職員には長年の信頼関係があり、利用者の高齢化による介護度アップや、職員の高年齢化が課題となっている中、今後の人材育成にも意欲が見られる。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) たんぽぽ

記入者(管理者)

氏名 黒田ひとみ 尾崎里美 蔭谷きよみ

評価完了日

平成25年3月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|--|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | (自己評価) 事業所の理念を明示し、共有している。明るく、楽しく、穏やかにを理念とし、入居者の地域参加、地域住民との交流を大切にし、入居者が、その人らしく暮らせるよう支援している。入居者の重度化が目立ち、職員が積極的に地域に参加することで、グループホームのよき理解者になっていただけるように努めている。 | |
| | | | (外部評価) 開設時に代表者と職員で作成された理念は、現在も大切に受け継がれており、地域との連携の中で利用者本位のサービスに努めている。毎年、理念を基に目標を立て評価を行い来期へと繋げている。職員は、入職時や業務カンファレンスで日常的に理念を共有しており、介護計画の援助方針に取り入れるなど実践している。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | (自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、夏祭り、盆踊り、川掃除など) 蛍観賞、夏祭りなど、ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただき交流を深めている。開かれた事業所を目指している。 | |
| | | | (外部評価) 自家菜園での作業や窓拭きのボランティアなどの地域住民が気軽に立ち寄れる関係づくりが行われている。また地域の保育園児の訪問や、小・中学校の児童や生徒の体験学習を受け入れている。地域との関わりを必要不可欠として捉えており、町内会行事や会議へ積極的に参加している。事業所が地域の一員として貢献しながら、相互に協力し合える関係づくりをしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | (自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、夏祭り、盆踊り、川掃除など) 蛍観賞、夏祭りなど、ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただき交流を深めている。開かれた事業所を目指している。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>(自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、夏祭り、盆踊り、川掃除など) 蛍観賞、夏祭りなど、ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただき交流を深めている。開かれた事業所を目指している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民、他事業所の職員等の参加は多種にわたる。会議は、毎回趣向を凝らして開催しており、日常の取組み等の報告を通じて、事業所の現状を理解してもらう良い機会となっている。また地域の情報交換の場として有効に活用しており、病気や介護、防災対策等の議題について話し合いをしている。</p> | |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 運営推進会議にも参加していただき、取組みを積極的に伝え、協力していただけるよう努めている。運営、ケアサービスの不明な点などについて連絡を取り相談している。</p> <p>(外部評価) 市介護保険課や地域包括支援センターの職員は、運営推進会議へ参加しており、定期的な報告や意見交換をしている。日頃から市担当者等とは気軽に連絡や相談ができる顔なじみの関係が築かれている。</p> | |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 「身体拘束ゼロの手引き」を各ユニットに置いて理解を深め拘束しないケアに努めている。また、四点柵が必要な場合は、その理由を明確にし、主治医の意見を伺い、状況を把握しながら、毎月見直しし、サービス計画にも含めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを整備しており、職員は話し合いの場を設け、身体拘束は行わないケアを実践している。安全上やむを得ない場合には、家族等と同意書を交わして、経過観察や再検討を行い最小限となるよう努めている。玄関はセンサーを利用して24時間開放しており、地域住民の協力のもと、職員間で声かけや見守りを徹底しながら利用者の自由な暮らしが送れるよう支援している。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) マニュアルを作成している。 高齢者虐待法についても定期学習会で勉強している。 虐待の記事などがあれば回覧で回し、見過ごすことがないように努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 成年後見制度についてのファイルを各ユニットに置き、いつでも閲覧できるようにしている。また、家族から相談を受けた時や、それ以外でも必要に応じて活用を支援している。また、数名は成年後見制度を利用している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 契約締結時には、十分時間をかけ説明し、理解していただけるようにしている。不明な点などは聞いていただき、納得できるよう説明している。 改定などがあつたときは、家族会を開いたり、手紙を送って承認をいただくなど周知徹底を図っている。 ターミナル、医療面などはその都度説明している。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) ホームの行事、家族会、ご家族アンケート、評価機関、市町村が集計したアンケート結果等を参考にしたり、ご家族の来所時に意見を聴き、迅速に対応することを目指して、カンファレンスを開催するようにしている。 | |
| | | | (外部評価) 苦情受付窓口が事業所内と公的機関にあり、サービスに対して意見がある場合は相談できることを利用者や家族等に説明している。利用者や家族等には、訪問時や家族会、ケアプラン等作成の連絡時に気軽に発言できるように努め意見を聞いている。意見が出された場合は、報告書にまとめ検討し、速やかな対応をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 個別面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っている。代表者にもこの内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。 | |
| | | | (外部評価) 事業所での勤務歴の長い職員が多く、気づきや思いなど言いにくいことも話し合える関係にある。施設長や管理者は日頃から悩みや問題がないか職員の表情をしっかりと観察しており、気づくことがあればその都度声かけをして和やかな関係づくりに努めている。また代表者も事業所に頻繁に来訪して運営状況等を詳細に把握しており、職員とは毎年面談の機会を設け、現場の意見等を運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 職員の日頃の努力、勤務状況を観察し、職場環境が良くなるように努めている。年度末には業務自己評価、目標管理表を通して評価し、やる気が維持できるように面談等で意見を聴くようにしている。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 職員一人一人必要と思われる研修に参加できるよう調整したり、ホーム内での定期学習会も開催している。年々同じ課題でも、内容を変えてマンネリ化しないよう工夫している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。所外研修や、包括単位の連絡会、他のグループホームの行事に参加することで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聞き、安心して利用して頂けるよう努めている。コミュニケーションを大切にし、ご本人の気持ちを受け止め、関係が築けるよう努めている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) ご家族に不安なこと、要望などを聞き、事業所でどの ような対応ができるか、その都度話し合いをし、家族 との信頼関係が築けるように努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている | (自己評価) 本人、家族の状況を把握し、その時必要な支援を見極 め、多職種と相談し、その方にあったサービスが提供 できるよう努めている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている | (自己評価) 入居者の思いを尊重し、コミュニケーションをとりな がら、共に生活をする者同士として良い関係を築ける よう努力している。 洗濯物をたたんだり、食事の準備、片づけを一緒に行 うなどして支えあう関係づくりをしている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 日々の出来事、体調変化などの情報を共有し、本人を 一緒に支えていく関係を築いている。また、日頃から 気軽に声をかけられ、話しやすい環境を整え、感情が 表出しやすいように配慮している。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている | (自己評価) 入居前の本人の馴染みの物、人、場所を大切にし、御 家族から話を聞き、それらが途切れないようにしてい る。いつでも面会に来ていただけるようにしているう え、関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけ を行っている。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた関係や習慣は、家族の協力を 得てフェイスシートや支援マップシートなどを利用し て、把握するよう努めている。事業所でも馴染みの関 係が今までと変わりなく継続できるよう支援してい る。また、地域住民や利用者との新たな馴染みの関係 づくりができています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|--|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 互いに助け合う場面があり、入居者同士が共に過ごす時間を大切にしている。必要時には職員が間に入り、良い関係が保てるよう配慮している。また、孤立しないよう席を配慮したりしている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 施設入所や、入院した場合でも連絡したり、面会に行き、その後の状況の把握に努めている。必要に応じて相談をお受けしている。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 日常的に本人の話を聞いたり、家族に話を聞いたりして意向の把握に努め、一人一人の生活パターンや嗜好に応じた支援を心がけている。 | |
| | | | (外部評価) 日頃から利用者の一瞬一瞬を見逃さないように努め、意向や思いを把握している。把握が困難な利用者には、家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作、志向などの少しの変化を観察して把握している。職員間で記録の共有や話し合いを行い、利用者の思いに沿ったケアができるようチーム体制で取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) フェイスシートを家族に記入していただき、バックグラウンドの把握に努めている。また、入居当初のサービス計画書を1ヶ月内の期間として、柔軟に計画変更ができるようにしている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 一人一人の過ごし方を理解し、観察、見守りを常に行い、心身状態、残存機能、現状の把握に努めている。アセスメントをし、少しの変化も見逃さないように努めている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を取り入れてカンファレンスをし、一人ひとりの現状に合わせた介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状態に変化があれば、その都度カンファレンスをし、新たな計画を作成している。 | |
| | | | (外部評価) 利用者の日々の様子は詳細に記録しており、利用者や家族等の要望を一番に考えて、職員は業務カンファレンスで検討している。介護計画は、計画作成担当者が作成し、毎月モニタリングを行っている。重要事項や介護計画の変更部分について色を変えて記載するなど、各書類が見やすいよう工夫しており、職員全員が内容を理解し、正しい援助ができるよう努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 個別に記録し、重要なことなどには蛍光ペンでラインを引くなどして工夫している。ケア内容の変更は計画書に赤字で追加し工夫している。モニタリング、アセスメントを行う計画作成担当者が固定することのないように、計画作成担当者が交互に実施し、客観性も重視している。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。入居者が買い物に行きたいとの要望が出た場合などはできる限り対応している。 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。消防、警察とも意見交換の機会を設けている。地域包括支援センターの職員とも情報を共有し、協働している。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | <p>(自己評価) できる限り、入居者、ご家族の希望するかかりつけ医 が継続できるようにしている。看護職員が中心とな り、かかりつけ医との情報交換を密にし、関係を築き ながら必要な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の多くは母体の医療機関を主治医としている。 事業所には看護師が多く、医療連携の体制が整備され ており、利用者は安心感がある。また、利用者の希望 する医療機関や専門医等を家族の協力を得て継続して 受診することができる。家族が対応できない場合に は、職員が同行して安心して受診できるように支援し ている。</p> | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | <p>(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、利用者の健康 管理や状態の変化に応じた支援ができるようにしてい る。医療機関との連携があり、緊急時の対応がすぐ にとれるようにしている。</p> | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | <p>(自己評価) 入院時にはできる限り職員が同行し、介護サマリーに 詳しく状況を記入し、情報提供している。医師、ナ ース、ご家族より状態を聞いたり、相談しながら、早期 退院に向けて協働している。</p> | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | <p>(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入 居時に説明している。 本人や家族の希望を聞き、どこまで対応できるか、職 員も一緒に話し合い、Dr、ナース、介護福祉士、家 族共々支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取りの指針を定め、マニュアルを整備している。利 用者や家族等の意向を確認しており、事業所としてで きることでないことを明確に説明している。状態の 変化した場合や段階に応じて家族等との話し合いの機 会を設け、医療機関などの関係者全員で支援できるよ う取り組んでいる。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|--|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見れるようにしている。救命講習に参加したり、応急手当、急変時の対応について研修を行い、実践力が身につくよう努力している。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加していただき、協力が得られる体制を築いている。ホームの緊急連絡網には地域の防災士の方も入っており、ホームの情報を通報できるようにしている。 (外部評価) 地域住民と一緒に避難訓練や緊急時招集訓練を実施しており、消防署や地域の防災士に具体的にアドバイスを受け意見交換をするなど協力関係ができています。また、非常災害時の勉強会を利用者を含めて実施している。備蓄は非常時に必要となる物品を備えている。 | 避難訓練や資料作成等に対して具体的に専門家にアドバイスを受けたら、地域住民と協力体制を築く努力をしていることは大変有効な対策である。今後は地域に貢献できることも検討しつつ、あらゆる災害を想定した訓練の実施や、繰り返して訓練していくことに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 一人一人を尊重し、穏やかな言葉かけや対応ができるよう心がけている。一人一人思っておられることが違うため、プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。声かけの仕方を職員同士が注意し合える関係でいる。 (外部評価) 居室やトイレ、お風呂等では、スクリーンを使用し、個人が特定される発言には配慮して支援している。職員は利用者を敬い尊厳を損なわないように不快感や羞恥心に気を配り、プライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応を心がけている。外部講師による接遇研修の勉強会を行い、職員間で意識を高めると共に、個人情報書類などは、厳重に注意して取り扱っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取ったり、ご家族に確認しながら決定を促している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 入居者のその日の体調や意向を確認しながら、生活リズムを大切にした支援をしている。できるだけ一人ひとりのペースに合わせ、職員主導の生活にならないようにしている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) その日の服装を職員と一緒に考え選んでいる。出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 一人一人の好みを考えて、必要時には嫌いなものを取り除いて、他の物を用意している。入居者のできる力を活かし、職員と一緒に準備したり、片付けをしている。職員と一緒に楽しく食事ができるようにしている。 | |
| | | | (外部評価) 利用者と職員が同じ食卓を囲み和やかな食事の時間を過ごしている。また、食事の準備や片付けなど利用者と一緒に行っている。何よりも食事が楽しみに繋がるように、利用者の志向の把握や健康状態の観察を継続して行っている。食事には菜園で収穫した旬の食材を用いたり、隣接する事業所と共通献立をアレンジしたりして、利用者一人ひとりを意識して調理する工夫をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 一人一人の状態を把握し、一日の水分、栄養バランス、習慣に応じた支援をしている。嚥下状態を把握し、それに応じた食事形態にしている。また、補食の工夫もあわせてしている。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後、一人一人の状態に応じた見守りや口腔ケア介助をしている。ポリデントを使用して清潔保持にも努めている。必要な方は、歯科医等に相談、指示を受けながら口腔ケアを行っている。寝たきりの方の口腔ケアについては、誤嚥性肺炎予防の意識が高く、夜間でも必要な方には実施している。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 一人一人の排泄パターンをアセスメントし、個々に応じた声かけ、誘導をしている。排泄パターンがつかみきれない場合でも、清潔で気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。 | |
| | | | (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをアセスメントで把握し、個人のリズムを大切に声かけ・誘導を行っている。排泄チェックや用品の工夫や適切な使用を職員間で話し合い、自立に向けた支援ができています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 水分をきちんと摂って貰ったり、マッサージを行ったりしている。必要に応じ、排便チェック表を作成し、パターンの把握に努めている。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 一人一人の希望や状態に応じて入浴支援をしている。安全面の配慮が特に必要な方には、二人体制で支援している為、時間が制約されることもある。 | |
| | | | (外部評価) 利用者は週2～3回を基本として入浴することができる。利用者の介助の必要に応じて入浴時間帯を決めざるを得ない場合もあるが、リフトの利用や補助具等のハード面の工夫を行い、双方に負担なく安全に入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には、無理強いせずに関係づくりや声かけなど対応に工夫して支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) その日の体調や本人の希望に応じて昼寝をしてもらっている。日中はできるだけ活動してもらい、夜間は安眠できるよう支援している。その方の生活習慣に応じてタイミングよく安眠できるよう支援している。 | |
| | | | (外部評価) | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人一人が服薬している薬について理解するよう努めている。薬の変更時は、職員に申し送りをしている。薬は職員が管理し、一人一人の内服を確認している。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 踊りや演芸、カラオケなど、イベントにも参加してもらおうよう支援している。庭へ出たりして気分転換を図っている。また、体調をみながら、花見や遠足、いちご狩りなど外出支援をしている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 全体的な外出や季節ごとの外出は計画を立てて行っている。車椅子の利用者が多い為、一人一人の希望を聞いての対応が難しくなっている。ご家族の協力も得ながら、季節を感じるよう支援している。 | |
| | | | (外部評価) 広い事業所敷地内では、日頃から日光浴や散歩をしており、設置している庵では、お茶会を楽しんでいる。利用者の希望により買い物などをして気分転換を図っている。外出計画を立てて定期的に外出したり、事業所行事や菜園等の作業をしたりして、地域住民や家族等との関わりも深まるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 所持できる利用者には少額所持していただき、自分で使えるよう支援している。困難な方は金庫に預かり、必要時に出している。出納は小遣い帳に記入し、ご家族に確認していただいている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 本人の希望がある時は、電話や手紙がいつでもやり取りできるよう支援している。ホームに住所移動されておられる方もあり、個人宛に手紙が送られてくることもある。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | <p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。 料理の臭いや音などで生活感のある環境を作り、花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している。体温調節の困難な方には、冷暖房、除湿、換気、掛け物の調整等を行っている。</p> <p>(外部評価) 家庭的な空間には、畳のスペースやテレビ、ソファがあり、自分の家でくつろぐように好きな場所で過ごすことができる。臭気や温度管理に配慮し、生活感がある中にも清潔感が保てるよう心がけている。段差の解消や建物内部を改修をして居心地よく生活できる工夫をしている。</p> | |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>(自己評価) 居室は個室で自分の空間として過ごしていただける。ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。思い思いの場所で過ごされ、会話を楽しんだり、TVを見たりされている。</p> | |
| 54 | 20 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) 本人の使い慣れたものを持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう配慮している。 壁に写真や絵を貼ったりして工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドが備え付けてある以外は、利用者は使い慣れたものや好みものを持ち込むことができる。思い出の写真を飾ったり、家具も使いやすいようレイアウトを自由に楽しんでもおり、心地の良い空間となっている。職員が清掃を行い、ベッドは利用者の希望や状態に合わせたものを使用できる工夫をしている。</p> | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>(自己評価) バリアフリーで手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。トイレなど共有部分には、混乱しないよう紙に大きく書いて貼っている。衛生上必要な洗剤類でも危険な場合もあるので、置く場所も工夫している。</p> | |

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|----------------|
| 事業所番号 | 3870102120 |
| 法人名 | 医療法人たくま会 |
| 事業所名 | グループホームせと |
| 所在地 | 松山市余戸南2丁目19-33 |
| 自己評価作成日 | 平成25年2月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載 |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 25 年 6 月 17 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の自治会、役員会に出席し、地域行事に参加したりして、地域との連携が取れている。運営推進会議が定期的にかかれ、諸行事を通し、地域との連携を図っている。研修担当者を中心に個人のスキルアップのために、所内外の研修に積極的に参加しやすいように配慮されている。母体が医療機関であり、看護職員も多く配置されており、健康管理、異常の早期発見、緊急時の対応ができるように努めている。夜間の看護体制もとられている。月に1回のモニタリングを計画作成担当者に振り分け協力して行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後12年を超えた事業所は、地域住民との繋がりを不可欠なものとして位置づけており、日頃から交流を大切にしている。母体法人は医療機関で、事業所には看護師が多く、医療と介護がお互いに協力連携体制ができており、利用者の健康管理や安全な暮らしが送れるようサポートしている。職員一人ひとりが利用者のケアに熱い気持ちを持って支援しており、利用者との和気あいあいとした関係づくりができています。利用者や家族等にとって最良のケアが提供できるよう、職員は必要な知識と技術を習得したり、評価や改善を繰り返し行い、利用者本位のケアが実践できるよう取り組んでいる。利用者とは長年の信頼関係があり、利用者の高齢化による介護度アップや、職員の高齢化が課題となっている中、今後の人材育成にも意欲が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 尾崎里美・蔭谷きよみ・横田裕美

評価完了日

平成25年2月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|---|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 明るく、楽しく、穏やかにを理念とし、入居者の地域参加、地域住民との交流を大切にし、入居者それぞれが、その人らしく暮らせるように支援している。会議などで理念の共有を深め、実践につながるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者と職員で作成された理念は、現在も大切に受け継がれており、地域との連携の中で利用者本位のサービスに努めている。毎年、理念を基に目標を立て評価を行い来期へと繋げている。職員は、入職時や業務カンファレンスで日常的に理念を共有しており、介護計画の援助方針に取り入れるなど実践している。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 町内会の行事等に積極的に参加している。(運動会・夏祭り・盆踊り・川掃除など) また、ホームの行事(並観賞、夏祭りなど)にも地域の方に声をかけて参加して頂くなどの交流をしている。地域の防災士の人に来てくれて、避難訓練に参加してくれている。</p> <p>(外部評価) 自家菜園での作業や窓拭きのボランティアなどの地域住民が気軽に立ち寄れる関係づくりが行われている。また地域の保育園児の訪問や、小・中学校の児童や生徒の体験学習を受け入れている。地域との関わりを必要不可欠として捉えており、町内会行事や会議へ積極的に参加している。事業所が地域の一員として貢献しながら、相互に協力し合える関係づくりをしている。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解や支援方法について知って頂けるように努めている。また、防災に関する取り組みの中で、入居者の生活を理解していただけるよう、機会あるごとにお話している。地域の様々な研修や会合にも参加している。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|---|-------------------------------|
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>(自己評価) 運営推進会議には、町内会の役員の方、御家族が参加され、日々の取り組みや、ホームの行事の参加の呼びかけ、気軽に意見が言い合える関係性ができており、参加できなかった職員、御家族にも内容を報告している。また、出された意見を参考に改善するなどサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民、他事業所の職員等の参加は多種にわたる。会議は、毎回趣向を凝らして開催しており、日常の取り組み等の報告を通じて、事業所の現状を理解してもらう良い機会となっている。また地域の情報交換の場として有効に活用しており、病気や介護、防災対策等の議題について話し合いをしている。</p> | |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 運営推進会議で、市の担当者の方に参加していただき、日頃の取り組み、年間計画などを積極的に伝え、協力関係を築いている。また、運営・ケアサービスの不明な点などについては、市の担当者に連絡をとり、相談している。</p> <p>(外部評価) 市介護保険課や地域包括支援センターの職員は、運営推進会議へ参加しており、定期的な報告や意見交換をしている。日頃から市担当者等とは気軽に連絡や相談ができる顔なじみの関係が築かれている。</p> | |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 身体拘束マニュアルを各ユニットに置いたり、所内研修などで勉強し情報を共有している。玄関の施錠をせず、入居者が一人で敷地内を歩いているときなどは、事務所の職員も入居者に声をかけたり、見守りをしている。身体拘束のないケアに努めているが、どうしても必要な時は時間帯や状況を検討して家族の希望がある時は、説明の上、同意書をとっている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを整備しており、職員は話し合いの場を設け、身体拘束は行わないケアを実践している。安全上やむを得ない場合には、家族等と同意書を交わして、経過観察や再検討を行い最小限となるよう努めている。玄関はセンサーを利用して24時間開放しており、地域住民の協力のもと、職員間で声かけや見守りを徹底しながら利用者の自由な暮らしが送れるよう支援している。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) マニュアルを作成している。また、研修会、勉強会に参加したり、虐待の関連記事等があれば、読み合わせたり、回覧等して防止に努めている。言葉の虐待には特に注意を払い、見過ごされないように防止に努めている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 成年後見制度に関するファイルを各ユニットに置き、いつでも閲覧学習できるようにしている。また、家族から相談を受けた時や、入居者の病状の悪化に伴い必要に応じて活用を支援している。研修に参加し、理解するように努めている | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 利用者やご家族の方から理解して頂けるように十分説明を行い疑問点や不安点にお答えして納得して頂けるように説明している。改定などがあった時は、家族会を開いたり、手紙を送って承認を頂くなど周知徹底を図っている。医療面・ターミナルについてはその都度、十分な説明を行っている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) ホームの行事、家族会、ご家族の来所時にご意見、ご要望を聴き、迅速に対応することを目指して、カンファレンスを開催するようにしている。それらの内容を全スタッフで共有し、運営に反映している。聞いた要望を経過記録に記入し、全職員が把握できるようにしている。 (外部評価) 苦情受付窓口が事業所内と公的機関にあり、サービスに対して意見がある場合は相談できることを利用者や家族等に説明している。利用者や家族等には、訪問時や家族会、ケアプラン等作成の連絡時に気軽に発言できるように努め意見を聞いている。意見が出された場合は、報告書にまとめ検討し、速やかな対応をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 個別面談や業務カンファレンスにて職員の意見や提案を聞く機会を作っている。意見を出し合い、責任者会議、運営会議に反映している。代表者にもこの内容を伝え、出来るだけ反映できるように努めている | |
| | | | (外部評価) 事業所での勤務歴の長い職員が多く、気づきや思いなど言いにくいことも話し合える関係にある。施設長や管理者は日頃から悩みや問題がないか職員の表情をしっかりと観察しており、気づくことがあればその都度声かけをして和やかな関係づくりに努めている。また代表者も事業所に頻繁に訪訪して運営状況等を詳細に把握しており、職員とは毎年面談の機会を設け、現場の意見等を運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 幹部職員が職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら、待遇面を決定している。職員のやりがいを考え、毎年少しずつでも昇給を実行している。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 研修を社内、社外で受ける機会を設けてあり、職員のケア技術の向上に努めている。また、外部研修に参加した場合、報告書を書いて頂き、学習会をするなどして職員で情報を共有している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換し、サービスの向上に繋がるよう努めている。医療法人のGH同士で事例を通じた学習会に参加して交流を深めたり、他のホームの行事に参加させてもらこともある。 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聴き、安心していただけるよう努めている。信頼関係が築けるまで、特にコミュニケーションを大切にし、不安や要望に耳を傾け、ご本人の気持ちを受け止め、関係が築けるよう努めている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|--|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 家族の苦労、不安なこと、要望など相手の身になって話しを聞き、事業所でそのような対応ができるか、きちんと話し合いをして関係づくりに努めている。また、入居後もできるだけ頻回に状況を報告するようにし、意見が言い合える関係づくりに努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 入居前からの関係機関、本人・家族の状況を把握し、職員と意見交換しながら、どのような支援が必要であるかサービスの選択肢が広がるように努めている。 (ショートステイ等を含めて) | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) コミュニケーションをとりながら、そばに寄り添い、信頼関係が築けるよう努めている。共に時間を共有し、買い物、洗濯物たたんだり、食事の準備、片づけなどを一緒に行うなどしている。入居者の言動、笑顔に励まされ、共に時間を共有しあう関係づくりをしている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 面会時、手紙、電話などで、毎日の生活状況や体調の変化などお知らせし、共に本人を支えていく関係を築いている。サービス計画の見直しの際や面会の時には、本人、御家族に意向や要望を確認するようにしている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) 入居前の生活状況・環境を良く知り、これまでの馴染みの関係が途切えることがないよう、電話・手紙などのやりとりを自由にしていただいている。いつでも面会に来ていただけるようにしている。関係が途切れないよう、家族の方へ協力の働きかけを行っている。外出支援の協力が得られる。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた関係や習慣は、家族の協力を得てフェイスシートや支援マップシートなどを利用して、把握するよう努めている。事業所でも馴染みの関係が今までと変わりなく継続できるよう支援している。また、地域住民や利用者との新たな馴染みの関係づくりができています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|--|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) お互いが声を掛け、利用者同士が関わりをもっている。、長い経過の中で、それぞれの居場所が確保されている。感情や気分の変化があるため、注意深く見守り、孤立しないように必要に応じて職員が間に入って、良い関係が保てるように配慮している。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 施設入所、病院に入院された時は、面会に行き、状況把握に努めている。必要に応じて相談や支援に努めている。その後経過状況を把握し、フォローできるように支援している。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 入居時の情報や会話の中から、意向の把握に努め、一人一人の生活パターンに応じた支援を心がけている。日々の会話から今したい事を把握し、できるだけ意向に添えるように対応している。レクリエーションに取り入れたり、個別の対応をしたりしている。 | |
| | | | (外部評価) 日頃から利用者の一瞬一瞬を見逃さないように努め、意向や思いを把握している。把握が困難な利用者には、家族等から情報を聞いたり、利用者の表情や動作、志向などの少しの変化を観察して把握している。職員間で記録の共有や話し合いを行い、利用者の思いに沿ったケアができるようチーム体制で取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 在宅を訪問し、生活環境の把握に努めている。家族や関係機関からの情報を収集し、経過把握に努めている。フェイスシートを記入して頂き、バックグラウンドの把握に努めている。馴染みのものを持ちこんでもらったり、日々の会話などからも把握している。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 一人一人の過ごし方を理解し、心身の状況、残存機能、現状を介護経過記録や申し送り簿等の活用で把握に努めている。少しの変化も見逃さないように注意し、日々の変化が見てすぐ分かるように工夫している。細かいやりとりを全て記入するようにし、誰が見ても分かるようにしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|--|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | <p>(自己評価) ケアマネージャー、計画作成担当者を中心に、カンファレンスを行い、本人・ご家族の要望を確認しながら、スタッフの気づき、意見を取り入れ、個別性のある介護計画の作成に努めている。また、計画変更の必要性の有無はモニタリングにて毎月点検している。</p> <p>(外部評価) 利用者の日々の様子は詳細に記録しており、利用者や家族等の要望を一番に考えて、職員は業務カンファレンスで検討している。介護計画は、計画作成担当者が作成し、毎月モニタリングを行っている。重要事項や介護計画の変更部分について色を変えて記載するなど、各書類が見やすいよう工夫しており、職員全員が内容を理解し、正しい援助ができるよう努めている。</p> | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | <p>(自己評価) 個別に記録に水分、排泄、ケア上の重要な点、計画に位置付けられている内容については、蛍光ペンで下線を入れて、どの職員にもわかるように工夫をしている。ケア内容の変更は計画書に赤字で追加し工夫している。記録用紙を変更し、気づきや評価などの欄を作り、記入しやすいようにしている。考えや状況が解かりやすくなった。</p> | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | <p>(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。職員体制を工夫した受診支援、外出支援、入退院の連絡調整、情報収集、緊急時の家族の宿泊など、その時々状況・要望に応えられるよう柔軟に支援している。</p> | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | <p>(自己評価) 地域の方に声を掛け何かあった時は協力が得られるよう働きかけている。消防、警察とも意見交換の機会を設けている。地域包括支援センターの職員、包括西地区の施設とも情報を共有し、協働している。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | <p>(自己評価) できる限り入居者・御家族の希望するかかりつけ医が 継続できるようにしている。かかりつけ医との情報交 換を密にし共有できるよう支援している。必要な医療 が受けられるよう支援している。状況に応じて、往診 を受けることも可能で、医師がすぐに駆けつけれる体 制をとっている。</p> <p>(外部評価) 利用者の多くは母体の医療機関を主治医としている。 事業所には看護師が多く、医療連携の体制が整備され ており、利用者は安心感がある。また、利用者の希望 する医療機関や専門医等を家族の協力を得て継続して 受診することができる。家族が対応できない場合に は、職員が同行して安心して受診できるように支援し ている。</p> | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | <p>(自己評価) 各ユニットに看護職員がおり、体調に応じて看護職員 が中心となって主治医に報告し、指示を得るようにし ている。夜間においても必要に応じて看護職員が応援 できる体制にしている。医療機関との連携があり、緊 急時の対応がすぐとれる。</p> | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | <p>(自己評価) 入院時にはできる限り職員が同行し、介護サマリーに て情報提供している。入院中も面会し、療養の様子や 状況をナースや主治医と情報交換に努めている。退院 前には再度面会に行き、退院後、困らないように状況 把握に努めている。</p> | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | <p>(自己評価) 重度化した場合や終末期のケアに関する指針を定めて おり、入居時から説明し、状況に応じて話し合いを行 い、ターミナルケアへスムーズに移行できるように全 職員で考える機会を設け支援できるよう取り組んでい る。ターミナルとはいかないが、状況が悪化した場合 には考えられるリスクを説明し、対応策についても協 議している。</p> <p>(外部評価) 看取りの指針を定め、マニュアルを整備している。利 用者や家族等の意向を確認しており、事業所としてで きることできないことを明確に説明している。状態の 変化した場合や段階に応じて家族等との話し合いの機 会を設け、医療機関などの関係者全員で支援できるよ う取り組んでいる。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|---|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 救命講習に参加したり、所外研修に参加したり、ホームの学習会で、応急手当や初期対応の実践力を身につけている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 災害マニュアルを作成しており、地域の防災訓練にも参加している。消防署の協力も得ながら、定期的にホームでも災害訓練を行い、地域の防災士の方にも参加していただいております。夜間の召集訓練や夜間出火を想定した訓練も行っている。 (外部評価) 地域住民と一緒に避難訓練や緊急時招集訓練を実施しており、消防署や地域の防災士に具体的にアドバイスを受け意見交換をするなど協力関係ができています。また、非常災害時の勉強会を利用者を含めて実施している。備蓄は非常時に必要となる物品を備えている。 | 避難訓練や資料作成等に対して具体的に専門家にアドバイスを受けたりと、地域住民と協力体制を築く努力をしていることは大変有効な対策である。今後は地域に貢献できることも検討しつつ、あらゆる災害を想定した訓練の実施や、繰り返して訓練していくことに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) さりげない食事介助、トイレ誘導、声かけなど、入居者のプライドを大事にしている。言葉に注意し、遠くからではなく、傍での穏やかな言葉かけや対応ができるよう気を配っている。 (外部評価) 居室やトイレ、お風呂等では、スクリーンを使用し、個人が特定される発言には配慮して支援している。職員は利用者を敬い尊厳を損なわないように不快感や羞恥心に気を配り、プライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応を心がけている。外部講師による接遇研修の勉強会を行い、職員間で意識を高めると共に、個人情報書類などは、厳重に注意して取り扱っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 本人が自己決定できるような声かけや支援をしている。意思表示の難しい利用者は、感情や、ちょっとした仕草や表情から読み取ったり、ご家族に確認しながら決定を促している。日々の会話の中で話しやすい環境を心がけている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 入居者のその日の体調や意向を確認しながら、ひとり一人の生活リズムを大切にした支援をしている。声かけをし、今日何がしたいか聴いたりしながら過ごしていただいている。職員が意見を出し合いながら、できる範囲で希望をに添った支援を心がけている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) その日の服装を職員と一緒に季節・温度にあった服を考え選んでいる。また、ほとんどの入居者が出張美容院を利用されているが、ご家族と行きつけの理・美容院に行かれる方もおられる。おしゃれの日を作り化粧をしたりしている。髭剃りなど身だしなみを支援している | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 入居者と職員が同じテーブルで一緒に食事をしている。料理の下ごしらえ、食器拭きなど入居者と一緒に行っている。好き嫌い表で好みを把握している。食事の嗜好の把握に努め、盛り付け、彩など食事が楽しみになるように工夫している。食べれる時に食べて頂けるように、時間がかかっても自力摂取が可能ならば、見守っている。 | |
| | | | (外部評価) 利用者と職員が同じ食卓を囲み和やかな食事の時間を過ごしている。また、食事の準備や片付けなど利用者と一緒に行っている。何よりも食事が楽しみに繋がるように、利用者の志向の把握や健康状態の観察を継続して行っている。食事には菜園で収穫した旬の食材を用いたり、隣接する事業所と共通献立をアレンジしたりして、利用者一人ひとりを意識して調理する工夫をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) ひとり一人にあった量や形状など自力摂取できるように工夫している。食事摂取量、水分量をチェックし、一人ひとりに負担なく摂取できるように職員間で工夫し、時間をおいたり、飲み物を変えて提供するなど必要量確保できるよう支援している。栄養状態、嚥下状態を把握するようにしている。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後の口腔ケア、義歯洗浄剤の使用、口腔内の炎症がないか点検し、一人一人に応じた見守り、介助をしている。ポリデントを使用し、清潔保持に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) ひとり一人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう、トイレ誘導を行っている。個々の状況に応じて、布パンツ、紙パンツ、パット、紙オムツ、ハイパーを使用し対応している。 | |
| | | | (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをアセスメントで把握し、個人のリズムを大切に声かけ・誘導を行っている。排泄チェックや用品の工夫や適切な使用を職員間で話し合い、自立に向けた支援ができています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 記録を基に排便パターンを把握し、水分摂取を勧めたり、食事に気をつけたり（牛乳・ヨーグルト・食物繊維の多いもの）、適度な運動、腹部マッサージなど個々に応じた予防をしている。排便が困難な場合は、主治医と相談し苦痛がないようにしている（緩下剤の使用など） | |
| | | | (外部評価) | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 入居者の希望に沿って、入浴支援をしている。一人で入りたい利用者は時々声かけ、見守りをしている。チェック表を作り、入浴の状況を把握している。一人一人のニーズに合わせて健康状態を考えながら入浴してもらっている。入浴できないときは、足浴や清拭をしている。重介護の方には、リフト浴を利用し負担の軽減を図っている。 | |
| | | | (外部評価) 利用者は週2～3回を基本として入浴することができる。利用者の介助の必要に応じて入浴時間帯を決めざるを得ない場合もあるが、リフトの利用や補助具等のハード面の工夫を行い、双方に負担なく安全に入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者には、無理強いせずに関係づくりや声かけなど対応に工夫して支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) その日の体調や本人の希望に応じて昼寝をして貰っている。意思表示できない方には表情をみて対応している。日中はよく活動してもらい、夜間は安眠できるよう支援している。夜間不眠の方には活動を把握し、検討しながら支援している。 | |
| | | | (外部評価) | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 処方箋を利用し、服薬ファイルを作成し、一人ひとりが服薬している薬について理解できるよう努めている。薬は職員が管理し、一人ひとりの内服を確認している。処方される薬分包して頂き、個々に合わせて服用しやすい形態に工夫している。間違いがないようダブルチェックしている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 外食、散歩、買い物、料理、洗濯など個々の生活歴や力に応じて役割があり、日々に生活の張りや楽しみになっている。行事やイベントにも参加して貰えるよう支援している。パン屋さんの車で販売の楽しみに買い物をされている。天候の良い日は散歩や庭に出たりして気分転換を図っている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 季節ごとの外出は、計画を立てて行っている。家族の協力もあり、外出や外泊できている利用者もいる。少人数での外出も少しずつ取り入れている(カフェ・買い物・散歩など)。普段は、庭などで外気浴や散歩程度を気候の良いときにしてい。 (外部評価) 広い事業所敷地内では、日頃から日光浴や散歩をしており、設置している庵では、お茶会を楽しんでいる。利用者の希望により買い物などをして気分転換を図っている。外出計画を立てて定期的に外出したり、事業所行事や菜園等の作業をしたりして、地域住民や家族等との関わりも深まるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) ひとり一人の希望や能力に応じて、外出時、自分で使えるよう支援している。困難な方は金庫に預かり、必要時に出している。出納は専用の用紙に記入し、定期定期にご家族に確認していただいている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 本人の希望があるときは、電話も手紙もいつでもやり取りできるよう支援している。電話は子機で居室で話ができるようにしており、プライバシーが保てている。ホームに住所移動されておられる方もあり、個人宛に手紙が送られてくる。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|--|-------------------------------|
| 52 | 19 | <p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ共用の空間が不快のないようにしている。ソファや絵画、分かり易い時計、カレンダー、花などを飾るなどして心地よく過ごせるよう支援している。塩素系の消毒薬で毎日拭き掃除を行い、衛生面にも配慮している。空調温度にも気をつけ、換気、除湿、かけものなどで調整している。</p> <p>(外部評価) 家庭的な空間には、畳のスペースやテレビ、ソファがあり、自分の家でくつろぐように好きな場所で過ごすことができる。臭気や温度管理に配慮し、生活感がある中にも清潔感が保てるよう心がけている。段差の解消や建物内部を改修をして居心地よく生活できる工夫をしている。</p> | |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>(自己評価) 居室は個室で自分の空間として過ごしていただける。ホールに出ればソファがあり、ゆったりと思思いの場所で過ごされ、会話を楽しんだり、編み物、読書などをされている。テレビを2箇所設置して観たいところでみれるようにしている。思い思いに過ごされている。</p> | |
| 54 | 20 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>(自己評価) 使い慣れたタンス、時計、写真が飾られ、居心地のよい居室になるようにしている。仏壇を居室に置き、お供えなどもされている方もおられる。音や光があると落ち着く方にはテレビを置いたり、ソファを置いたり工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドが備え付けてある以外は、利用者は使い慣れたものや好みものを持ち込むことができる。思い出の写真を飾ったり、家具も使いやすいようレイアウトを自由に楽しんでおり、心地の良い空間となっている。職員が清掃を行い、ベッドは利用者の希望や状態に合わせたものを使用できる工夫をしている。</p> | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>(自己評価) 認知症の程度や判断力に応じて、安全に生活できるように居室、トイレ、浴室などに大きく表示したり、家具の配置を工夫している。バリアフリーで手すりがついておりできるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。安全に動けるよう物の配置など工夫に努めている（歩きやすい、動きやすい空間づくり）</p> | |